室戸市教育委員会

令和７年度　自己点検・評価報告書

～ふるさとを愛し、心豊かでたくましく 生きる力を育む教育～

令和８年７月

１．自己点検・評価

評価ランク　　Ａ：優れた取組がなされており、成果が十分上がっている
Ｂ：問題なく取り組んでおり、一定の成果が上がっている
Ｃ：取り組んでいるが、さらなる改善が必要である
Ｄ：取組が不十分であり、一層の改善・努力が求められる

大項目	中　　項　　目	小　　項　　目	実　績　及　自　己　評　価	
１　教育委員会の活動	（１）教育委員会の会議	①開催状況	○定例会・・・１２回開催（毎月） ○臨時会・・・　３回開催（６月・１１月・３月）	Ｂ
		②運営上の工夫	○統合中学校に関する協議や諸議題について、事前のスケジュール周知及び関連資料の配付等により、計画的に審議が行えた。	
	（２）総合教育会議	①開催状況	○８月・２月の２回開催した。	Ｂ
		②協議内容	○第４期室戸市教育振興基本計画等の教育政策について協議するとともに、教員の働き方改革・放課後子ども教室等について協議を行った。	
	（３）教育委員会と事務局との連携	教育委員会と事務局との連携	○定例会で事業報告を行うとともに、教育委員会の行事への参加を依頼した。	Ｂ
	（４）教育委員の自己研鑽	教育委員の自己研鑽	○高知県市町村教育委員会連合会及び安芸郡市町村教育委員会連絡協議会主催の合同研修へ参加している。 ○視察研修は隔年のため、令和７年度は実施していないが、市教育委員会独自の研修も含め、引き続き委員の研鑽の場の確保に努めていく必要がある。	Ｂ
	（５）学校、教育施設に対する支援や指導・施設の整備	①学校等への訪問・支援	○市内全小中学校を訪問し、指導助言を行うとともに実態把握に努めた。	Ｂ
		②所管施設の訪問・支援	○各教育委員が放課後子ども教室や図書館等を適宜訪問し、利用する児童等の実態把握に努めるとともに改善に係る支援等を行った。	

大項目	中　　項　　目	小　　項　　目	実　績　及　自　己　評　価	
２教育委員会が管理・執行する事務	（１）教育行政の基本的な方針に関すること		○年度当初に「第３期教育振興基本計画の令和７年度実施計画」を策定し、調査分析による学力向上への取組など学校教育の充実に積極的に取り組むとともに、小中学校へのICT機器の設置等教育環境の充実、また、統合中学校整備事業に取り組むなど計画に沿った事業を実施した。 ○第４期教育振興基本計画を策定した。 ○「令和８年度教育行政方針」を策定し、教育振興基本計画の事業実施の方針を示した。	A
	（２）教育委員会規則等の制定又は改廃に関すること		○（制定） 室戸市統合中学校開校準備委員会設置条例　他２件 ○（一部改正） 室戸市中央公園条例　他１２件 ○統合中学校開校に向けた条例制定及び県立室戸体育館が高知県から譲渡されたことに伴う条例等の改正を行った。	B
	（３）学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること		○令和６年度に引き続き、室戸市統合中学校あり方検討委員会を開催し、統合中学校開校に伴う様々な課題について調査及び検討を行い結果をまとめ市長に報告した。（２回）	B
			○あり方検討委員会の報告を踏まえ、室戸市統合中学校開校準備委員会を設置し、令和１１年度開校に向けた具体的検討を行った。（１回）	
	（４）教育機関の職員の任命その他の人事に関すること		○県費負担教職員、教育委員会事務局の人事異動及び社会教育委員等の委嘱及び任命を行った。また、市内中学校教職員及び市教育委員会事務局会計年度任用職員の不祥事を受け、不祥事防止研修の実施等再発防止に向けた対策を行った。	C
	（５）教育予算等議会の議決を経るべき議案について意見の申し出に関すること		○補正予算及び令和８年度当初予算の審議及び承認を行った。 ○室戸市統合中学校開校準備委員会設置条例の制定、室戸市中央公園条例等の一部改正議案の承認を行った。	B
	（６）事務の適正執行に関すること		○個人情報等の重要書類について、重要書類受渡表にて、受渡日、発送者、受取者を記録に残す仕組みづくりを行い、適切な管理に努めるなど、事務の適正執行に努めている。	B

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	⑴学校教育に関すること	①学校教育内容の充実	①児童生徒の学力の向上	○令和７年度全国学力・学習状況調査では、小学校は国語（－0.8）・算数（－3.0）、理科（＋0.9）で理科のみ全国を上回る結果となった。中学校は国語（＋5.7）・数学（＋4.7）で全国平均を上回る結果であった。12月の高知県学力定着状況調査は、中２が国語（＋2.1）・理科（＋7.4）を除く３教科が県平均を下回り、中１は英語（＋7.5）理科（＋5.9）を除く３教科が県平均を下回った。小４は国語（＋9.4）・算数（＋9.7）、小５は国語（＋2.1）・算数（＋2.4）とすべてにおいて県平均を上回った。各校で学力向上サイクルシートを作成してこまめにPDCAサイクルを回し、基礎基本の徹底を重点的に推進してきた結果、平均を上回る教科が増えた。引き続き、基礎基本の徹底を推進していくとともに今後は学習習慣のさらなる深化を目指し、個別のフィードバックを通じた指導の最適化を行っていく。	C
			②心の教育	○令和６年度から令和７年度の不登校児童生徒数は、小学校は３名→５名、中学校３名→５名と小・中学校ともに増加し、そのうち新規の不登校は、小学校３名、中学校１名であった。それぞれの学校区での不登校を未然に防ぐ取組（居場所づくり、絆づくり）を継続していく。	
			③健康・体力の向上	○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果の体力合計点は、全国比で、小学校で男子（－4.2）・女子（－2.2）、中学校では男子（－5.8）・女子（－0.9）で全国を下回った。今後は、より細かく分析した児童生徒の実態に基づき、「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」を活用した体育活動を実施していく。また、高知県保健体育課の指導主事を招聘し、体育授業の工夫改善を行うことで児童生徒の意欲を引き出していく。	
			④校種間連携教育の推進	○保小架け橋研修を３回開催し、資質・能力をつなげるスタートカリキュラム・交流計画の見直し及び架け橋期カリキュラムの作成を進めた。また、小中連携では、中学校から小学校への乗り入れ授業やリモート交流等の授業交流を引き続き実施するなど校種間連携に関する取組をすすめた。	
			⑤教職員の資質・指導力向上	○「すべての子どもが輝く学級・学校づくり」や「インクルーシブな学級づくり」について、８月に桃山学院大学松久眞実教授を招聘し、研修会を実施した。また、県指定事業「令和の授業DX」において室戸中学校が拠点校となり、公開授業や講演会を開くことを通して本市教職員のICT活用指導能力の向上を図った。今後も他の中学校区で公開授業と講演会を実施していく。	
		②家庭・学校・地域社会の連携教育の推進	①ふるさと教育の推進	○キャリア教育推進事業をふるさと教育と位置づけ、各校で総合的な学習の時間を中心としたジオパーク学習に取り組むことにより、地域への愛着、地域に貢献したいと思う意識・意欲へとつなげられている。	C
			②家庭での基本的な生活習慣及び学習習慣の定着化	○「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣に関しては定着しつつある。家庭学習に関する調査では、土日に全く勉強をしないと回答した児童生徒の割合は小６で5.1%、中３で2.7%となっており、全国よりも低かった。成果の可視化と週明けの称賛活動を組み合わせる等の工夫を行うことを通して、家庭学習を「強制」から「自発・習慣化」へ移行させていく必要がある。	

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3　教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	⑴学校教育に関すること		③地域学校協働本部の活動内容の充実、コミュニティスクール設置への取組	○令和５年度に全地区で学校運営協議会の設置が完了し、令和７年度は各地区で以下のとおり会議を実施した。 佐喜浜地区…４回、室戸地区…２回 吉良川地区…５回、羽根地区…３回	
		③教育環境の充実と施設整備	学校施設の教育環境の充実	○室戸小学校、吉良川小学校、佐喜浜中学校、羽根中学校において特別教室等にエアコンを設置した。 ○佐喜浜小学校（普通教室、特別支援教室、音楽室）及び室戸小学校（音楽室）の床の修繕を実施した。 ○室戸中学校において、車いすの生徒に対応するため、グラウンドにスロープを設置した。 ○プール水深の浅い吉良川小学校を除く、佐喜浜小学校、室戸小学校、羽根小学校にプールフロアを設置した。 ○令和２年度に導入した一人一台端末（クロームブック）について、導入から５年が経過し、更新時期となったため、５００台分を更新した。	B
		④教育研究所等各事業の充実	①各校の学力向上対策への支援	○学校訪問（各校年間５回）では授業通覧後、管理職と面談を行い、各校の実情に応じた学力向上策について協議を行った。 ○市外７校の授業改善に向けた先進的な研修会に参加し、そこで得た学びを「研究所だより」として、全教職員に情報を共有した。 ○市内の研究授業や校内研修会に参加（８校全２０回）し、各校の先生方と一緒に協議を行った。その後、各校の特色ある取組を「研究所だより」で全教職員に発信した。 ○県教委指定の「グローバル人材育成事業」に協力し、室戸市の子どもの実態（外国語について）を把握すると共に、改善に向けての取組を発信した。 また、発表校である室戸小学校には研究推進員が全４８時間授業訪問をし、英語力向上に向けて取り組んだ。	B
			②不登校児童生徒への適応指導に関する研究や支援	○教育研究所では、各校へ毎月の３日欠席調べを依頼して、長期欠席児童生徒の状況を把握し、学校訪問や支援会への参加を通して、関係機関と協力し、個別支援や学校の取組の充実につなげた。年間の校内支援会への参加は４校全２５回であった。 ○専門的な知識を持つスクールカウンセラーを講師として、教育相談を行った。（２校全８回）教師個人との面談では、各々の困り事等に対して的確に助言を行い、その精神的なフォローに努めた。 ○教育支援センターでは、学校と情報共有しながら、児童生徒の居場所づくり、学校復帰、学力保障の取組を進めて、進路実現につなげ、通所につなげるための家庭訪問による支援も行った。４月当初は１名の通室生がいたが、９月より学校に登校（午前中）するようになり、１０月からは完全復帰となった。そのため、支援センターへの通室生は０となり、２名の指導員は室戸小学校への支援に回るようになった。 ○教育研究所主催による教職員や支援員を対象とした研修を開催した。８月１日には若年教員研修会を、市内5年次教員を対象に市の指導主事と協力して開催した。同月１８日には、高知大学の是永かな子教授を招いて発達障害支援研修を、また２５日はカワマートホールディングス代表取締役社長の川間凡也氏を招いて、ミドルリーダー研修会を実施した。参加教員の肯定的評価の割合は以下の通り。 ・若年教員研修会：１２名/１５名 ・発達障害支援研修：３８名/４０名 ・ミドルリーダー研修会：１２名/１４名	

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3　教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	⑵生涯学習に関すること	①生涯学習の充実	①学習機会の提供	○公民館において世代間交流事業やシルバーセミナー、文化祭などを開催した。８月には、サマーセミナー、演劇「１２人の怒れる土佐人」、1月には佐喜浜生活改善センター、佐喜浜小学校で出張サマーセミナーを実施し、生涯学習活動を通じて地域住民の文化の向上につなげた。 ○文化芸術フェスティバル開催を通じて、室戸市活性化事業を推進し、地域住民の教養の向上に努めた。	B
			②人権教育事業の推進	○人権教育の普及及び拡大に向けて、人権教育推進講座の開催や市人権教育研究協議会等との連携を図った。	
			③図書館サービスの充実	○毎月の特集コーナーの設置や秋の読書週間スタンプラリーの開催等により、図書館の貸出冊数を増やし、利用者の読書意欲の向上に取り組んだ。 ○図書館システムや図書館のネットワークを活用し、利用者にとって便利な図書館の実現に取り組んだ。 ○巡回図書、読み聞かせなどを実施し未就学児や小学校低学年に読書に慣れ親しむ機会の提供や乳幼児健診時に絵本を贈呈する等読書推進活動を行った。	
		②生涯スポーツの充実	①市民スポーツの推進	○マラソン大会、駅伝大会、少年野球春季選手権大会等のスポーツ大会を開催し、市民スポーツの推進に努めた。	B
			②地域スポーツ団体との連携	○体育会、スポーツ少年団、スポーツクラブ等と連携し、イベント参加者への実技指導を行うなど、競技力の向上を図った。	
			③各種スポーツ合宿の推進	○県外の大学及び高等学校等に対して合宿誘致を行い、韓国ラオン高校、リトルリーグチーム１チームのほか、龍谷大学等6校の野球部を迎えた。 ○市内宿泊施設の閉鎖により、誘致に向けた宿泊施設の確保が今後の大きな課題となっているが、国立室戸青少年自然の家等を活用している。	

大項目	中項目		小項目	実績及び自己評価	
3　教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	⑵生涯学習に関すること	③伝統文化の活用・継承	①吉良川町並みの保存・活用	○国・県の補助事業を活用し、重要伝統的建造物群保存地区内の建築物の修復を行い、文化財の維持、保存に努めた。また、保存会と連携を図り、ひな祭り行事を開催し、市民への啓発活動に取り組んだ。 ○吉良川小学校の児童向けに出前授業を実施し、郷土愛や興味・関心・意欲の向上に努めた。	B
			②地域文化・伝統芸能の保存・活用	○国選択及び指定の無形民俗文化財シットロト踊りの傘修繕を行った。 ○鯨文化の伝承及び向上のため、捕鯨の歴史、文化を市内外にアピールする「捕鯨文化伝来４００年記念事業」を実施し、地域発展や交流人口の拡大を図った。	
			③文化芸術活動の推進	○室戸市美術展覧会を開催し、市民の創作意欲を高めるとともに、地域の芸術・文化活動の振興に取り組んだ。また、児童・生徒の作品制作を通じて美術教育の推進を図った。	
		④青少年の健全育成	①少年育成センターの充実	○警察や学校等関係機関と連携を図り、放課後の市内巡回や夜間の特別補導を実施するとともに、薬物乱用防止教室やインターネット・スマートフォンの安全な利用に関する教室、誘拐被害防止のための教室、不審者への対応教室等を開催し、青少年の健全な育成に努めた。	B
			②放課後対策事業の推進	○放課後の子どもたちの安全安心な居場所づくりや仲間づくり、地域との連携・協働のために放課後児童クラブ及び放課後子ども教室を開催した。また、適宜コーディネーター及び支援員と面談を行い適正な人員配置に努めた。	

２．自己点検・評価に対する意見（学識経験者の知見）

１教育委員会の活動

定例会は計画的に、臨時会も必要に応じて開催できています。特に、令和７年度は室戸市統合中学校整備事業や教員の働き方改革、また、放課後児童クラブに係る協議等、定例会で複数回協議が行われており、教育委員会で諸課題に対して丁寧な議論が行れたことは評価できます。

また、安芸郡市町村教育委員会連絡協議会が行う研修に教育委員が参加するなど、委員の識見を深める研修機会の確保に努めています。

２教育委員会が管理・執行する事務

令和７年度においては、教育振興基本計画の改定を行うともに、教育行政の基本的な方針や規則の改正等に関する事務等については、良好に処理されています。

また、統合中学校にかかる協議においては、継続して計画的に議論が行われていることや、教員の働き方改革プランの現状について、教育委員会で情報を共有し、様々な意見を出し合うなど、積極的に議論が行われたことは、大いに評価できます。

今後においても、児童、生徒や保護者、地域住民の声に真摯に耳を傾け、室戸市教育振興基本計画等の趣旨に基づき本市の教育行政の推進に努めてください。また、個人情報を含む情報管理は、職員研修等により意識づけを行い、引き続き管理を徹底してください。

なお、令和7年度において教職員の不祥事が発生しています。高知県教育委員会や校長会と連携のもと、教育公務員としての責務を十分自覚するための研修を実施するとともに、課題を持つ教職員への指導のあり方を検討するなど、再発防止に取り組んでください。

３　教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

（学校教育）

学力については、全国学力・学習状況調査において、中学校では全ての教科で全国平均を上回っていますが、小学校では国語、算数ともに、全国平均を下回る結果となっています。中学校ではこれまでの取組の成果が一定現れたものと考えられますが、小学校では、理科を除く２教科が全国を下回っている現状を踏まえ、引き続きICTの活用や校内研修、授業改善に組織的に取り組むことが必要であると考えます。今後においても、指導主事による学校訪問や担当者会などにより、基礎学力の定着のため、授業改善の取組を進めて下さい。

また、不登校児童生徒への支援については、現状を把握のうえで、教育支援センター及び教育研究所など関係機関との連携を図りながら、不登校を生じさせない学校づくりに向けた取組を進めて下さい。

（生涯学習）

生涯学習については、世代間交流事業やシルバーセミナー等の取組に加え、サマーセミナーや文化芸術フェスティバルなど多様な取組が展開されていることから、引き続き地域住民に対して積極的な学習機会の提供に努めて下さい。

図書館サービスについては、小学校や保育所での読み聞かせ、毎月特集コーナの設置など読書意欲向上につながる取組が出来ています。今後も、図書館システムの有効活用などにより、誰もが利用しやすい図書館づくりに取り組んで下さい。

生涯スポーツについては、各種大会を通じてスポーツに親しむ機会を提供し、地域住民の健康増進、体力向上が図れるよう取り組んで下さい。

スポーツ合宿誘致の課題となっています宿泊施設の確保については、市の課題であることから、市長部局と連携しながら、効果的な対策の検討を行うとともに、既存の宿泊施設も活用して取り組んで下さい。

伝統文化の活用、継承については、地域の人口減少が深刻化する中で、今後の重要な課題です。そのためには、地域の活性化や人材育成に取り組んでいく必要があり、地域の特性を活かした魅力発信や各種イベントの開催を通じて、地域の文化を次世代に伝えるための取組の強化を図って下さい。

人権教育の推進は重要な課題であり、市長部局や各種団体などとの連携・協力をさらに進め、市民の人権意識の向上に積極的に取り組んで下さい。

今後とも、あらゆる機会を通じて、子ども達や保護者をはじめ、地域の方々の声に真摯に耳を傾け、少子化・人口減少社会に対応した教育を推進し、本市の教育理念「ふるさとを愛し、心豊かでたくましく、生きる力を育む教育」の実現にご尽力下さい。

以上、総合評価は『Ｂ』とします。

令和８年７月３１日　　評価者　：　竹　本　俊　之